

## 『神の前で、神と共に、神なしで』 マルコの福音書4章35-41節 2019.1.27 聖日礼拝説教より

『いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。』  
ヨハネの手紙第一 4章12節

「神なしで」とは、『隠されている神』のこと。その神を、どう信じるのか？

❶**御言葉への信頼(35節)**…ここでイエスは『向こう岸へ渡ろう』と言われただけで、舟を漕ぐこともなく寝ておられた。弟子たちは主の御前で、主なしで頑張るも、死の危険を感じて主を起し、一瞬で嵐を静めた主に言われた『信仰はどうした？』。主は「渡れ」ではなく、「渡ろう(一緒に行こう)」と言われたのであって、必ず目的地に着く！しかし彼らは、人生で経験したことのない患難でパニックした。◆東日本大震災で会堂閉鎖となった福島第一聖書バプテスト教会(佐藤彰師)はイザヤ 43章から主の声を聞く。2年間 700kmの放浪の旅…悲しみの涙を流しつつ前を向き、絶望の荒野に道開かれ、「翼の教会」を献堂。「見よ、わたしは新しいことをする(43:19)。激しい試練と悲しく辛い道筋で、素晴らしい恵みの主、凄い御計画を知る(詩篇 119:71)！何より重要なのは、ただ主の言葉を信じ受け止め進むこと！

❷**臨在への信頼**…弟子たちの叫びは目の前のイエスに届く！「黙れ、静まれ」とは、弟子たち(私たち)への主の思い。「神の前、神と共にあって、何故言葉通りになると信じないのか！」私たちは悲惨な現実の前に、何故こんなこと…と叫ぶ。確かに最悪の前に、何を信じるのか？ダビデは、臨在の主のゆえに「死の陰の谷／災い」を恐れじと告白し(詩篇 23:4)、ネブカデネザルに屈しなかった3人の少年は、「たとえ焼け死のうとも神を信じると豪語(ダニエル 3:17-18)！これは明らかに大人の信仰！私たちは、神から委ねられた御言を信じ、どんな状況でも持ち場を守り、忠実に使命を果たせるようにしていただける！目に見える神の助けが何もなくとも、神の御声を聴き、神と共に、御前で生きる！Iヨハネ 4:12は、目の前の患難、罪汚れ、嫌なことだらけの世にあって、大人のクリスチャンであるあなたは、見えざる神の愛が、見えるように生きよと勧められる。

★兄弟姉妹よ！この世の罪や悪、死の陰の谷や災いに、たじろぐな。わがままな人間を、苦難に満ちたこの世に寄り添い、ありのまま愛してご覧。そうしたら、神の愛がこの世で豊かに実を結ぶから！弱く哀れで無力な姿となられ私たちの救いとなられたキリストの使者として、見えざる神の愛で前進せよ！